

福寿川をきれいにしたい

羽幌地区環境計画町民会議は16年度独自事業を実施するために水質浄化班とスローライフ班を設置しました。



水質浄化班は、環境アンケートの中で町民の嫌いな場所として一番多くあげられた福寿川の汚濁と悪臭を何とかしたいとして組織されました。

昔の川底には砂利があり、その隙間に微生物が住みつき、流れて来る汚れを食べて川をきれいにしていました。

今の福寿川はコンクリート張りでヘドロが溜まり微生物が働きづらい環境にあります。その対策として、下水道や合併処理浄化槽を普及させることはもちろんですが、直接福寿川の汚れを取ることが出来ないのか、その方法として、全国各地で成果が出ているカキの貝殻を川の中に沈め微生物のすみかを作り、微生物の力で川の汚れをきれいにしようと考えました。

そこで漁師さんからいらなくなった漁網をもらい、それで袋を作り、カキの貝殻を詰めて川に沈める事を考えました。



6月上旬から漁網をもらい夜遅くまで袋縫いをしました。
中旬にはオホーツク海の佐呂間漁協から無償でもらったカキの貝殻を羽幌へ輸送し、下旬には炎天下のなか約一週間、漁網で作った袋にカキの貝殻を詰め、口を縫いました。
そして、大小174個のカキ貝殻の袋をつくりました。
7月4日(日)、町民会議メンバーと町民ボランティア20人で福寿川の相合橋と温泉橋の間で袋詰したカキ貝殻を設置しました。
今年5月から町(上下水道課)が福寿川の水質検査地点を増やし月一回の調査を実施しています。



ごみマップづくり

6月16日、第6回目の羽幌地区環境計画町民会議が開かれました。

今回のテーマは「ごみマップづくり」です。町内のごみ不法投棄の現場を写真で撮影し、それを持ちより大きな地図に貼り付け町全体のごみ不法投棄地図を作るものです。



町民会議メンバーにはあらかじめ12枚撮りカラーフィルムが渡されており、5月の清掃月間が終了してから撮影を開始しました。会議当日は、メンバーがプリントした写真を手に参加し、ひとり一人現場の状況を説明しながら大きな地図に写真を貼りました。

見る見るうちに地図は写真で埋まり、身近なところでもごみが捨てられているのがよく判り、マナーの悪さが目立ちました。



ごみマップは7月1日～12日まで中央公民館ロビーで開催した環境計画町民会議活動報告展「未来のこども達へ…」で展示をしました。今後も公共施設などで掲示をし、町民の皆さんに見ていただきたいと思っています。

環境計画町民会議では、会議の中から出てきた環境を良くする運動を、町民の皆さんと一緒に、「自分のできるところから、できる時からすこしづつ始めて行きたい」と思います。皆さんも、今からでも一人からでも出来ます。ちょっとだけ自分のまわりの環境に目を向けてみませんか。

それが未来の子どもたちへ、素敵な環境を残していけるカギだと思います。

▶環境計画町民会議へのご意見をお待ちしています。事務局（農林水産課自然環境係）へご連絡ください。
☎ 2-1211(内線347) E-メール nousui@town.haboro.hokkaido.jp